

# 教育出版の国語教科書

## 言葉と向き合い、「学び」を生み出す

学び手である子どもの視点に立ち、子どもの興味・関心に寄り添って、豊かな言語活動を触発し、主体的な言葉の学びを引き出すことのできる教科書——それは、教科書編集をおして、これまで私たちが一貫して追究してきたことでした。特に、二十一世紀を迎え、教育出版の国語教科書は、わが国の言語や言語文化に関する基礎素養を育てるとともに、課題の発見から追究に向けて展開する主体的な言語活動をおして、新しい価値ある情報を生み出していく「生きる力」としての国語力を育てようとしてきました。まさにそれは、新しい令和の時代になって、改めて求められる理想の教科書ではないでしょうか。

約言すると、言葉や言語文化への興味・関心を育むとともに、主体的な追究活動をおして生きた言葉の学習の成立を図るということ、それは教育出版の教科書編集に携わった、わが国を代表する優れた先達たちが求めてきたことでもありました。会社の創業者である小坂佐久馬は、戦前の北海道で小学校教師として日々の実践に打ち込んでいた教育者で、その小坂が、戦後、北海道の教師たちと、新しい時代の教科書はどのようなものでありたいかということを本気で論じ合った——その結果、生まれたのが、昭和二十五年度版の教育出版刊行の教科書『こくご』（小学二年）でした。その最初の刊行から七十年余、その間、それぞれの時代を代表する優れた教育者や研究者をはじめ、作家や評論家などのご協力で、右に述べたような教育出版らしい国語教科書の基本的な性格ができて、全国的なご支持を得てまいりました。そこで、教育出版の国語

田近洵一



田近洵一（たちかじゅんいち）

東京学芸大学名誉教授。

早稲田大学教授などを歴任。

教科書の基本的な性格の形成に編者としてお力をお寄せくださった代表的な方がたのお名前を、次にあげておきます。

西尾実、木下順二、加藤周一、外山滋比古、今西祐行、三木卓、佐々木定夫、大村はま など。

私は、幸いにして、右記の全ての先生がたと、教科書編集の席を同じくさせていただきましたが、それぞれのお立場から、教材に関して厳しいご指導をたまわりました。

私が編集に直接に参加するようになったのは、昭和五十五年版小学校教科書からでした。特に中学校編では、小海永二と北原保雄、そして私の三人が、大村はまなどの先輩と一緒に、教科書教材を起動教材とする新しい学習活動の開発と取り組み、それを「言語学習單元」という名のもとに、教科書のうえに提案してきました。さらに、新しい教材の発掘と、学習活動の開発は、教育出版が発足の当初から力を入れてきたことで、それは今日でも変わりません。第九次の教育課程の施行を前にして、私たちは、未来を見据えて、「言葉による見方、考え方」をはたらかせる学習活動に視点を置き、子どもが主体的に「言葉と向き合う」教科書を提供したいと考えています。



最初期の教育出版国語教科書  
(昭和28年度版小学校・昭和29年度版中学校)